



化学的防除

①石灰窒素の上手な使い方

(参考資料：農林水産省発行 [春夏編]、[秋冬編]ジャンボタニシの防除対策 (移植水稻))

- 田植前防除、収穫後防除とも水温が17℃以上の時期に、3~4日間湛水を保った後、石灰窒素 (使用量：20~30kg/10a、使用回数：1回) を散布。
- 窒素成分を多く含むため、基肥の量を減らす調整が必要。

【田植前防除編】

- 石灰窒素散布後、湛水したまま3~4日間以上維持し、代かきを行う (散布から7日以上後に田植え)。
- 魚毒性が高いため、漏水を防止し、散布後、7日間は落水・かけ流しはしない。

【収穫後防除編】

- 魚毒性が高いため、田面水は水路に流さず自然落水させ、その土壌が乾燥して固い厳寒期 (1~2月) に冬期の耕うんをする。

【使用上注意点】

- 散布時、周辺の作物の葉や茎に石灰窒素が付着すると、薬害を起こすことがあり、風に飛ばされにくい粒状タイプを使うなど、十分な対策をとる。
- 皮膚や眼に対する刺激性も強いので、直接触れたり、吸い込んだりすることのないよう注意が必要。
- 使用に当たっては農薬のラベルに表示された使用方法等を必ず確認すること。

## 化学的防除

### ②スクミノン（令和4年1月4日現在の登録内容）

- 使用量：1～4kg/10a 使用回数：2回以内  
使用時期：収穫60日前まで
- 湛水状態（水深3～5cm）で散布し、散布後は7日間そのままの状態を保ち、落水やかけ流しをしない。
- 1回目散布の7日後に田んぼの様子を見て、活動しているジャンボタニシの密度が高い場合、追加散布する。

## 物理的防除

### ①水路からの流入防止

- 水路で越冬したジャンボタニシの侵入を防止するため、水口にネットや金網の設置を行う。  
※ネットはゴミでつまりやすいので、外側は櫛状の鉄筋で間隔は大きなゴミを止められる5～10cmのもの、内側は貝の侵入を防ぐ網目1cmのネットの2重にする方法が良い。

### ②卵塊のふ化防止

- 卵塊は水に弱く、水中では窒息死するので、卵塊を見かけたら水に沈める。  
※卵塊を素手で触るとかぶれる可能性があるため、素手では触れないようにする。

### ③ロータリー耕耘で破貝

- ①走行速度を遅く、②ロータリーの回転数を上げてトラクターで耕耘する。  
※時速1キロ以下、できれば600mまで落としロータリー回転数を2～3の高速回転にすると良い。
- 時期は殺貝効果が高まる厳寒期（1～2月）に実施。
- 未発生ほ場への貝の持ち込みを防止するため、**必ず使用後のトラクターに付着した泥を洗浄する。**

## 農薬（スクミノン）散布スケジュール

	4月中旬	4月下旬	5月上旬	5月中旬	5月下旬
作業	入水	代かき		田植え	農薬剤散布
水管理 田面水				散布後、3～4日間は水深3～5cmを維持	散布後、3～4日間は水深3～5cmを維持
ジャンボタニシ	越冬		活動開始	イネを食害（5葉期頃まで）	
薬剤防除	ジャンボタニシは水温17℃以上で活動を開始します。早い時期の田植えでは、田植え同時散布してもジャンボタニシが薬剤を食べない可能性もあるので注意。			薬剤散布 田植え同時 又は田植え後	散布 7日後 ほ場確認
					(必要に応じて) 薬剤散布 2回目

被害程度によって対策技術の組み合わせを選択してください。

地域の条件により秋の石灰窒素散布ができない場合等、ご不明な点につきましては普及センターまでご連絡ください。